

謹啓

初冬の候、御一統様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、今回善光寺季刊誌『成寿』第三七号をお届けいたします。

この号は、特に昨年暮れに行われた当山二世中興大圓武志大和尚の一周忌法要等のご報告や石川県の古刹大乘寺・永光寺の特集をさせて頂きました。

ご高覧頂ければ幸いです。

皆々様のご健勝をお祈り申し上げますと共に今後とも尚一層の御法愛、御教導賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

謹白

平成十八年十二月吉日

横浜善光寺 住職 黒田博志 合掌

カラ	■ 當山二世中興大圓武志大和尚一周忌……………	1
特集	● 在りし日の先代方丈さまを偲んで……………	10
カラ	● 先代方丈さまの遺偈に触れて―秋季彼岸法会―……………	22
カラ	■ 北陸の古刹―大乘寺と永光寺―……………	29
特集	● 曹洞宗ゆかりの地・北陸の寺々と大圓和尚の思い出……………	41
連載	● 『普勸坐禅儀』に学ぶ その一……………	52
カラ	■ 国際レポート・アメリカ「MAEZUMI INSUTETUTE」オープニングセレモニー・ドイツ「普門寺」開創十周年慶讃報恩法要・聖慈母観音菩薩開眼法要……………	59
特集	● 国際レポート・アメリカ 前角インスティテュートオープニングセレモニーに参列して……………	67
	● 国際レポート・ドイツ 開眼法要の記……………	71
	● ドイツ訪問記 大倫の花……………	75
読物	● 孟蘭盆会法要法話 心の器、身を調える……………	83
	● 善光寺霊園ニュース……………	101
	● 胡建明師の学位（博士号）授与式に列席して……………	109
	● ニュース・アラカルト……………	111

巻頭言

善光寺住職 黒田博志

早いもので、師父大圓武志大和尚の三回忌を迎えました。

去年の一年、私は唯々無我夢中、刻々必死に走り抜けた気がいたします。

それに比べ、この一年というのは、少し考え、ものを観ることのできる時間を
持てたように思います。

そこで、師父大圓和尚が開創以来常に掲げていた「宗祖を通して釈尊に還る」という思想、師父はどのような考えからこのような理念を打ち立てたのかを考えました。

それを知るために、まず最初に曹洞宗の歴史の原点を自分の目でみ、肌で感じ、そして知ることが大事であると痛感しました。

私は今年の六月、石川県の古刹、大乘寺と永光寺を訪ねました。師父の独立への第一歩もまた北陸路でした。この地から全国一周托鉢行脚もはじまっています。これは偶然ではないと思いました。

大乘寺と永光寺は、永平寺と共に曹洞禅の源流をなす重要なお寺です。大乘寺のご開山は永平寺第三世の徹通禅師、永光寺のご開山は徹通禅師のお弟子の瑩山禅師です。両山へ拝登して、曹洞宗の法脈の尊さ、歴史の重さを改めて確認することができました。

奇しくも只今大乘寺の山主様は師父大圓和尚ともっとも親交の厚かった東隆眞老師。ご老師より師父の話を聞かせていただきながら、大乘寺、永光寺の歴史、さらに曹洞宗の飛躍とその経緯までお伺いすることができました。おかげさまで、善光寺創成期の師父の苦労を実感しながら、善光寺の位置づけ、目標、そして私

の歩むべき方向というものをおぼろげながら感じることができました。

また、五月には、アメリカ・マサチューセッツ州にできた「前角インスティテュート」のオープニングセレモニーに参列し、九月には、師父大圓和尚が二〇〇二年に講演させていただいた、大変ご縁の深いドイツの普門寺様での十周年記念式典並びに晋山式に参列させて頂きました。

改めて師父の残した足跡の大きさを強く感じると同時に、師父を生前お支え頂いた多くの檀信徒の皆様方、関係の皆様方に深く深く感謝せずにはいられない気持ちです。

また、山内では、五月に「港南ひばりの森霊園」を開園することができ「横浜やすらぎの郷霊園」も新区画を開放させていただくことができました。

昨年の師父の一周忌よりこの一年滞りなく無事に行事を勤めることができましたことをここに報告申し上げます。

これも檀信徒の皆様方、関係の御寺院の皆様方、関係各位の皆様方のおかげで

ございます。重ねて心より深く深く感謝申し上げます。

今後とも師父の心を心として、若輩ではございますが、精一杯尽くして参りたいと思っております。